

交流及び共同学習の事例を探究する（2） ～子どもの学習をどのように評価するか～

企画者	楠見友輔（東京大学大学院／日本学術振興会特別研究員） 浅間耕一（大阪北視覚支援学校／元大阪教育大学附属特別支援学校） 中村晋（筑波大学附属大塚特別支援学校）
司会者	中村晋（筑波大学附属大塚特別支援学校）
話題提供者	浅間耕一（大阪北視覚支援学校／元大阪教育大学附属特別支援学校） 石飛了一（筑波大学附属大塚特別支援学校） 高岸康文（大阪教育大学附属平野中学校） 中島弘貴（大阪教育大学附属特別支援学校） 藤原亮治（筑波大学附属坂戸高等学校）
指定討論者	米田宏樹（筑波大学人間系）

KEY WORDS: 交流及び共同学習 知的障害 評価

【企画趣旨】

わが国ではインクルーシブな社会の構築に向けて、交流及び共同学習への期待や関心が高まっています。しかし、これまでの多くの交流実践が「やることに意義がある」という次元に留まっており、どのような交流が参加者にとって効果的であるかについての知見は蓄積されてこなかった（楠見, 2016）。交流が子どもにとっての学習機会となり交流実践が発展していくためには、交流を通じた障害児と健常児の学習の評価についての議論を蓄積していく必要がある。

本シンポジウムは特殊教育学会第 55 回大会の自主シンポジウム「交流及び共同学習の事例を探究する：知的障害児・健常児にとっての交流の目的と評価」において明らかになった以下の知見やその課題を受けて、評価についての議論をより具体的に行うために企画した。

- ①交流は目的を持って計画・実施すべきであり、子どもを主語とした評価可能な目標を設定すべきである。
- ②教師は自身の所属校の子どもの評価を行うが、その際に交流相手校の子どもの情報を共有することは有効である。
- ③交流時のみではなく、より長い期間における子どもの学習の中に交流を位置づけて評価することは有効である。
- ④知的障害児が交流の中でどのような学習をしているかを評価するための方法を開発する必要がある。

話題提供の前半では、大阪教育大学附属特別支援学校と同大学附属平野中学校の間で行われた学校間交流、後半では筑波大学附属大塚特別支援学校と同大学附属坂戸高等学校の間で行われた学校間交流の実践の紹介と評価についての議論を行う。両校とも、交流及び共同学習における子どもの学習を重視し、その評価の開発に取り組んだ。

両話題提供は、1. 実践した学校間交流の事例を紹介する、2. 知的障害特別支援学校の教師から自校の生徒を対象とする評価方法の検討と評価結果についての考察を行う、3. 通常学校の教師から自校の生徒を対象とする評価方法の検討と評価結果についての考察を行う、という流れで進める。

【話題提供の趣旨】

1. 大阪教育大学附属学校の学校間交流の事例と評価
担当：浅間耕一・中島弘貴・高岸康文

生徒が互いに積極的な態度を養い、相互理解を促進することを目標に、昨年度両校はゴールボールゲーム等を題材に年間 10 回の交流を行った。交流を深めるためには対人魅力の向上が必要との仮説を立て、質問紙を作成した。障害のない生徒は自分たちで解答し、障害のある生徒は身近な教員が解答する形で成果を確かめ、印象評価も実施した。また、学習の課題が達成されているかどうかをルーブリック評価で確かめた。本実践は本年度も続いている。通常学校、特別支援学校の両方の立場から見た交流及び共同学習における子どもの学習について分析し、発表する。

2. 筑波大学附属学校の学校間交流の事例と評価
担当：石飛了一・藤原亮治

H27 年度より両校は交流をしている。H30 年度は、年間計画に基づき障害児は「自己意識・他者理解を深めること」、健常児は「交流を通じ、共生社会を担う人材として主体的に関わる人間になること」を主な目標として交流に取り組む。話題提供では、本年度から試行している、通常学校での交流の振り返りに特別支援学校の教員が参加する実践、特別支援学校での振り返りにアンケートだけではなく聞き取りを行う実践の二つの分析結果を報告する。

【指定討論者の趣旨】

○適切な評価に基づく授業実践を実現するために
担当：米田宏樹

交流及び共同学習は、それぞれの在籍校の授業として位置付けられるものであることから、教育課程上の位置付けと指導の目標を明確にし、適切な評価を行うことが求められる。4 校 2 実践報告をもとに、活動題材設定・授業計画の立案のための事前評価の方法と内容（評価結果に基づく各校児童生徒の学習課題の設定と両校のすり合わせや具体的活動支援・指導方法の確認等の評価に基づく事前準備の在り方）、授業実施における形成的評価と総括的評価の方法と内容、指導計画の修正等、適切な評価に基づき具体的な子どもの学習成果をつみあげる交流及び共同学習の授業実践の在り方を討論したい。

(KUSUMI Yusuke, Asama Koichi, NAKAMURA Susumu, ISHITOBI Ryoichi, TAKAGISHI Yasufumi, NAKAJIMA Hiroki, FUJIWARA Ryoji, YONEDA Hiroki)